

# ウメ ‘紅サシ’ の施肥前栄養診断

## 1 はじめに

これまで、ウメ ‘紅サシ’ の栄養診断は9月以降の葉を分析した窒素含有率の値から行っていましたが、その年の施肥は終わっており、当年の栽培管理の参考とするには間に合いませんでした。そこで、新梢の葉面積と葉緑素計の値を用いることで、施肥時期前の簡易栄養診断を試みました。

## 2 サンプルングおよび調査方法

6月上旬および8月上旬に同一園内の代表的な生育のウメ樹を3本選び、日当たりの良い外周部にある30~60cmの新梢の中間の葉を1樹につき10枚ずつ、計30枚採取します。葉面積(S)は、葉の長さ(L)と幅(W)を測定し、関係式  $S=L \times W \times 0.57$  から算出します。葉緑素計(コニカミノルタ社製 SPAD-502plus)の値は1枚ごとに葉身の6か所を測定し、平均します(図1)。葉は虫食い等の欠損や色ムラのないものを選びます。採取した葉は保冷箱に入れて運び、その日のうちに測定します。

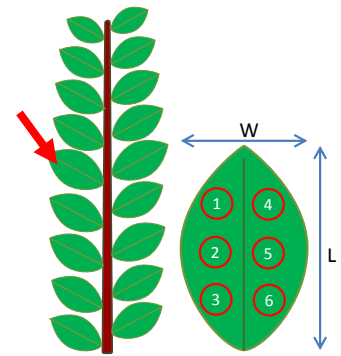


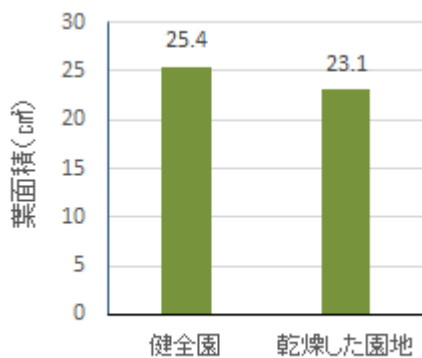
図1 測定部位

## 3 葉面積および葉緑素計の値からみる栄養診断

葉面積  $23 \text{ cm}^2$  以上、葉緑素計の値6月上旬は41(葉中窒素含有率3.0%)以上、8月上旬は47(葉中窒素含有率2.5%)以上を目安とします。

園地や樹体の状態が良好でなければ、施肥量を増やしても樹体が養分を吸収することはできません。6月上旬および8月上旬の葉面積が  $23 \text{ cm}^2$  より小さければ、園地の土壤水分の多寡や獣害の影響がないか、園地の整備を確認します(図2、3)。

施肥の養分は土壤水分とともに吸収されます。干ばつなどにより水分不足になったり、せん定が十分に行われず枝どうしで水分や養分が競合したりすると、葉中窒素は少なくなります。6月上旬および8月上旬の葉緑素計の値を参考に園地や樹体の状態を確認してから施肥量の加減を行います(図4、5)。



(最大水ポテンシャルの値)

健全園 (-0.80)

乾燥した園地 (-1.83)

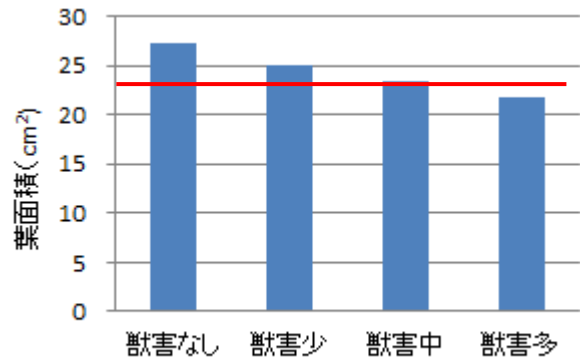


図3 獣害(シカ)による葉面積への影響

図2 園地の乾燥による葉面積への影響

※両園とも同一生産者による栽培管理

※獣害の多少は下草の植被率により、

少: 75-100%、中: 50-75%、多: 10-25%とした

◆健全樹 ◆衰弱樹（せん定、施肥などの不十分な栽培管理、獣害のある園地）

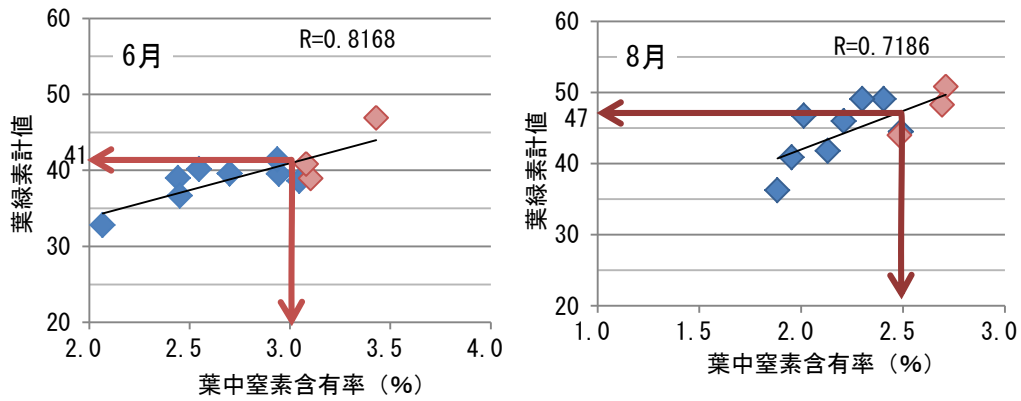
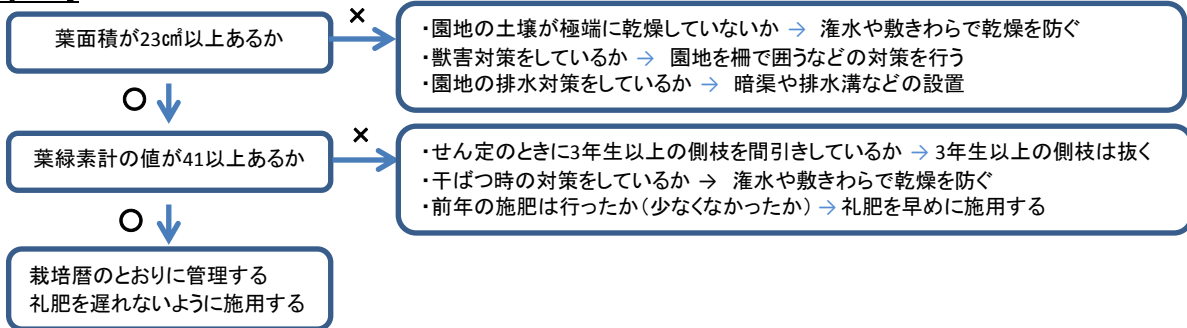


図4 葉緑素計の値と葉中窒素含有率の関係

#### 6月上旬



#### 8月上旬

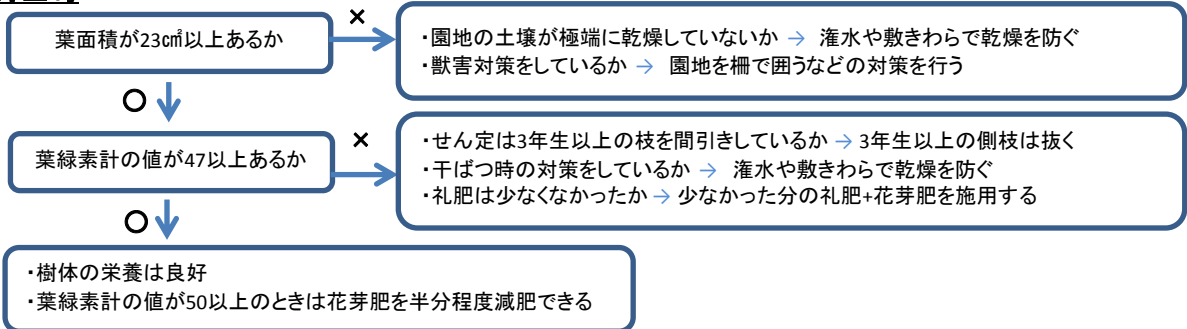


図5 葉面積、葉緑素計の値からみる栄養診断

#### 4 留意事項

本成果は‘紅サシ’でのみ摘要できます。

[その他]

研究課題名：作業性の高い水田転換ウメ園の増収技術の確立

研究期間：平成22～26年度

研究担当者：農試 園芸研究センター ウメ・果樹研究G 神田 美奈子